



平成30年度7月号

朝二中だより

朝霞市立朝霞第二中学校

平成30年7月2日発行

〒351-0007 朝霞市岡199

TEL 048 (461) 6540

Fax 048 (467) 4742

想像力を養う

校長 杉山 巖

先週末に関東地方は過去最も早い梅雨明けとなり、夏本番のうだるような暑さとなりました。そして、**時の流れは早い**もので、もう1学期も終わろうとしています。

先日の学校朝礼では、「運動部の地区大会」を終えて、その後の話をしました。新人戦が終わったときには学校総合体育大会にむけてどう過ごしていくかという話をしましたが、覚えていますか、この8ヶ月をうまく過ごせましたか、と聞きました。8ヶ月の間に新人戦の課題を少しでも克服できたか、成長できたかと問いかけました。

部活動については区切りがついた人は、次の目標に向かって動き出して欲しいところです。時間はあっという間に流れていきます。その**流れに取り残されないように**自分自身をコントロールして欲しいと思います。

話は変わりますが、ここのところ学校に関わる様々な、しかも大きな事件・事故が発生しています。大阪府北部地震関連の話もその一つです。大阪府北部を震源にマグニチュード6.1、最大震度6弱を記録した地震では4名の方が亡くなりました。うち1名は、小学生が学校のプール沿いのブロック塀の倒壊によってその下敷きになり犠牲となっています。

災害は、いつどのように起こるのか、予測がつきません。ことあるごとに『**想定外**』という言葉が出てきますが、私たちはいろいろな災害に対してどれくらい想定できているのでしょうか。

子どもたちの多くは、地震に関しては、東北地方太平洋沖地震、いわゆる東日本大震災の記憶から想定しているのですが、私は、23年前の兵庫県南部地震＝阪神淡路大震災の映像が脳裏を駆け巡ります。関東地方の揺れは大きくありませんでしたが、被害の様子を伝えるニュースを見て、呆然とした記憶があります。保護者世代の方々の中には記憶に残っている方もいるでしょう。

ウルトラマンの特撮セットの街が怪獣に壊されたように、ビルが倒れ、高架になっている高速道路が横倒しになり、観光バスが今にも落ちそうに宙づりになっている。街のあちこちで家が燃え、炎が吹き上げている。そんな映像だったと思います。現実世界で、ビルが倒れ、高速道路が横倒しなどあり得ない話で、まさに私にとって想定外の出来事でした。

東日本大震災では、関東地方でも震度5弱の大きな揺れをみんなが経験したところですが、あれだけの地震であれば、大きな被害が出るであろうことは阪神淡路大震災を経験した人にとってはみんな想定できたでしょう。また、津波が発生するかもしれないことも想定できたと思います。ただし、その大きさが想定外であったため多くの被害を受けました。今回の大阪府北部地震では、ブロック塀が倒れるかもしれないことは想定内であったはずなのに残念でなりません。

さて、私たちは**想定外**のことに、どのように対応すれば良いのでしょうか。想定内であるなら、対策を立て対応するでしょうが、そうなるとは思わなかった想定外の出来事にはどうすれば良いのでしょうか。

まずは、経験値を高めることだと思います。そして、そこから**想像力をふくらませる**ことが大事だと思います。**経験、体験が想像力の基礎**となり、想像することで**新しい道が開かれる**はずです。

「AがだめならB」「そのBがだめならC」となるような道を想像できるようにするためには、元となる経験、体験が重要なはずですが、それは何も特別な経験、体験をしなればいけないという話ではありません。日常の生活を大事にすること、日常の経験、体験を大事にすることこそが大切だと思います。**想定外に対応できる想像力を養う**ためにも**日々の生活を大切に**して欲しいと願っています。